

## B型肝炎予防接種について

### 【病気】

B型肝炎はB型肝炎ウイルスによる肝臓の病気です。このウイルスは非常に感染力が強く、血液だけでなく、唾液や汗・涙からも感染するといわれており、保育所などでの集団感染例や家族内感染事例の報告もあります。日本では、すでに約130万～150万人が感染しており、現在も毎年約2万人が新たに感染しています。感染しても症状がほとんど出ませんが、発症した場合は慢性肝炎、肝硬変・肝がんになるおそれがあります。免疫が不十分な乳幼児が感染すると、ウイルスが体から排除されない「キャリア」になりやすいといわれています。

### 【ワクチン】

基礎免疫をつけるには、一定の間隔で3回の接種が必要です。主な副反応としては、発熱、発疹、倦怠感や局所の痛み等です。

### 【救済制度】

定期的な予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障がでるような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく補償を受けることができます。

### 【接種が不適当な方】

予防接種は、体調のよい時に受けるのが原則です。

また、お子さんが以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ①明らかに発熱（通常37.5℃以上をいいます）がある場合
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ③受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ④明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療を受けている場合
- ⑤その他、医師が不適当な状態と判断した場合

### 【接種要注意者】

下記のいずれかに該当するお子さんは医師と相談が必要です。

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けているお子さん
- ②予防接種で、接種後2日以内に発熱のみられたお子さん及び発疹、じんましんなどのアレルギーと思われる異常がみられたお子さん
- ③過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがあるお子さん
- ④過去に免疫不全の診断がなされているお子さん及び近親者に先天性免疫不全症の者がいるお子さん
- ⑤ワクチンにはその製造過程における培養に使う卵の成分、抗生物質、安定剤などが入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのあるお子さん

### 【予防接種を受けた後の注意】

- ①予防接種を受けたあと30分程度は、医療機関でお子さんの様子を観察するか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう
- ②はげしく体を動かすことは避け、接種部位は清潔に保ちましょう
- ③入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう
- ④接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう